

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

| 科 目   | ペー ジ  | 科 目   | ペー ジ  |
|-------|-------|-------|-------|
| 政治・経済 | 2～23  | 日 本 史 | 24～42 |
| 世 界 史 | 44～58 | 地 理   | 60～71 |
| 数 学   | 72～77 |       |       |

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

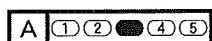
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

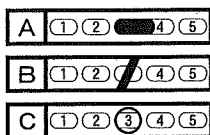
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

西ヨーロッパでは、10世紀から11世紀ごろにかけて封建社会<sup>(1)</sup>の成立がみられる。この封建社会は、経済的な基盤を荘園制においていた。荘園は8世紀ごろにみられるようになったが、それは直営地と保有地と共同地からなっていた。10～11世紀、農民は、領主に対して、貢納や賦役の義務を負った。領主は、領主裁判権などの<sup>(2)</sup>  (1)  を通じて農民に強い権力を行使し、税の徴収を確実なものとした。

農業は、10世紀ごろから次第に普及した農業技術の改善によってその生産力を安定させてきた<sup>(3)</sup>。また、この時代にみられる都市と商業の発展は荘園制のあり方にも大きな影響をおよぼした。荘園を中心とした  (2)  経済は、貨幣を媒介とする交換経済へと発展したのである。これに伴って、農民が領主におさめる地代<sup>(4)</sup>の形態も大きく変化してきたのである。

14世紀から15世紀になると、人口が増大する一方で、農業はその成長の限界を迎えた。また、イギリス王の  (A)  がフランスの王位継承権を主張して開戦した百年戦争やイギリス王位をめぐる内戦であった  (3)  といった戦乱、さらには1340年代以降数度にわたる  (4)  の流行もあり、西ヨーロッパは大きな危機に直面することとなる。このような危機に直面した領主は地代を軽減し、農民の土地保有権を強化し、保有地の売買や貸借の自由を認めた。このことは、領主と農民との関係を大きく変容させた。貨幣を蓄えた農民の中には多額の解放金を支払うことで、隷属的身分から自由となったものもいた。イギリスでは、特にこの動きが顕著で、独立自営農民<sup>(5)</sup>が出現した。他方、フランスを中心とする地域でも小規模経営の農民が多数出現した<sup>(6)</sup>。

これに対して、農民の土地を直営地に吸収して、賦役労働を強化することで再び農民への束縛を強めようとする動きもみられた。このような動きは、 (5)  とよばれる。このような中で、貴族への反感などの理由から北フランスでは、農民と手工業者らが中心となり、蜂起を行った。この蜂起は、

(6) とよばれた。イギリスでも1381年には、(B) が思想的に影響を与えたワット・タイラーの乱<sup>(7)</sup>がおこった。彼らは、王との直接交渉によって農奴制の廃止、取引の自由、地代の減額などを約束させたが、当初それはうまくいかなかった。

荘園制の解体は、中小の領主層や騎士の経済的・政治的な基盤を崩壊させることで、やがて封建制の土台を揺るがすこととなる。

ところで、14世紀になると次第に教皇の権威が衰えてきた。すでに、12世紀から13世紀にかけてローマ教会に対する批判が高まったことを受けて、異端とよばれる考え方が広まっていた。たとえば、南フランスや北イタリアを中心に広まったワルド派とよばれる人々は教会から激しい弾圧をうけることとなった。他方、南フランスで特に勢いをもった(7) 派に対しては、教皇インノケンティウス3世<sup>(8)</sup>が十字軍を提唱した。これにルイ9世が賛同した。その後、教皇(C) は、フランス国王(D) と対立し、アナーニでとらえられた。その後、新教皇にウルバヌス6世が選出されたことを契機に、(8) に対立教皇がたてられ、教会大分裂がおこった。

問1 空欄(1) ~ (8) にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

[語群]

- |   |          |   |       |   |        |
|---|----------|---|-------|---|--------|
| a | アヴィニョン   | b | アリウス  | c | アルビジョワ |
| d | クレシーの戦い  | e | 経済外強制 | f | コレラ    |
| g | 自給自足     | h | 実証主義  | i | 資本主義   |
| j | ジャックリーの乱 | k | 天然痘   | l | バラ戦争   |
| m | フロンドの乱   | n | ペスト   | o | 封建制の危機 |
| p | 封建反動     |   |       |   |        |

## 世界史

問2 空欄 (A) ~ (D) にもっとも適した人名を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| a ウィリアム1世    | b エドワード3世 |
| c グレゴリウス11世  | d クレメンス5世 |
| e ジョン=ボール    | f フィリップ4世 |
| g フィリップ6世    | h フス      |
| i ボニファティウス8世 | j リチャード1世 |

問3 下線部(1)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア この時代に見られる西ヨーロッパの封建社会は、主君と臣下の関係からなるが、それは血縁を基礎に形成されており、たいへん強固なものであった。
- イ この時代に見られる西ヨーロッパの封建社会は、国王を頂点としたものであり、中央集権的な特徴を強く持つ体制であった。
- ウ この時代に見られる西ヨーロッパの封建社会は、主君と臣下の契約としての側面が強く、主君が契約に違反すれば臣下は従わないこともあった。
- エ この時代に見られる西ヨーロッパの封建社会は、フランク王国の分裂以後、急速に衰えていった。

問4 下線部(2)に関して、次のアからエのうち、10~11世紀の農民の説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア この時代以降、農民は「モノをいう道具」と表現されるようになった。
- イ この時代の農民は、資本家である領主に自己の労働力を売るという立場にあった。
- ウ この時代の農民は、移動の自由はなかったが最低限の財産を保有することは容認されていた。
- エ この時代の農民は、移動の自由もあり、財産権も有していた。

問5 下線部(3)に関して、次のアからエのうち、説明として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 耕地を3分し、それらを順次利用する三圃制が普及した。
- イ 鉄製有輪犁の導入によって、従来よりも深く耕すことが可能となった。
- ウ 牛馬を使った耕作がしやすいように土地を細長い地片に区分けした。
- エ 低湿地帯を堤防で囲むことで田を作りそこでの耕作を可能とした。

問6 下線部(4)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 入会地への領主の規制の確立とともに、貨幣地代が急速に普及した。
- イ 農民が保有地からとれる穀物などの生産物を領主におさめる生産物地代は、領主直営地の解体と相前後して普及した。
- ウ 貨幣経済の発展に伴い、農民は生産物の一部を市場で売り、獲得した貨幣で地代を支払った。これによって農民の領主への従属性はさらに高まった。
- エ 西ヨーロッパでは労働地代、生産物地代および貨幣地代は長い間併用されて用いられてきた。

問7 下線部(5)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 身分的な制約のいくつかは緩和されたが、それは非常に限定的なものであり、領主による恣意性はなお強かった。
- イ 領主裁判権や結婚税などの束縛が廃止、あるいは縮小されることとなった。
- ウ 領主の側は常に農民の解放を拒み、場合によっては大きな争いに発展することもあった。
- エ これによって、農村が荒廃し、社会的な混乱を引き起こす要因となった。

## 世界史

問8 下線部(6)に関して、次の文章の空欄 (1) ~ (4) にもっとも適したものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

彼らは、農奴の身分から脱した自由農民である。しかしながら、16世紀になるとイギリスで (1) 業の需要増大に伴って起こった (2) の影響を受け、その一部は (1) 業などの経営を行うことで (3) 層になるものや土地を失うことで (4) となったり失業者となるものもあらわれた。

[語群]

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| a 囲い込み  | b 騎士   | c 絹織物   |
| d 金融    | e 毛織物  | f ジェントリ |
| g 賃金労働者 | h 農奴解放 |         |

問9 下線部(7)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア これは戦争のために戦費として導入された死亡税への反発によって生じた一揆である。

イ この一揆は、首謀者らの死亡によって収束するが、農民達が反対をしていた人頭税は廃止された。

ウ この一揆は一時エジンバラを占領し、その地で国王と直接的な交渉を行うこととなった。

エ この一揆は貴族への反感がもとで生じ、最終的には王みずからが軍隊をひきいて鎮圧した。

問10 下線部(8)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 彼はモンゴル人のキリスト教改宗と偵察の命をプラノ＝カルピニに与えた。

イ 彼は教皇権と世俗権力は対等であると考え、各国の国王と合議による支配を行った。

ウ 彼はハインリヒ4世を破門し、世俗権力に対する教皇権の優位を主張した。

エ 彼は教皇は太陽であり、皇帝は月であると述べた。

問11 下線部(9)に関して、次のアからエのうち、説明として適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アナーニ事件に関連してフランス国王は貴族、都市、農民の代表からなる三部会を招集した。

イ アナーニ事件では、フランス国王がフランス国内の教会領への課税を行おうとしたことをめぐって教皇と対立した。

ウ アナーニ事件では、一時教皇がフランス国王の監視下に置かれたことから教皇のバビロン捕囚とも呼ばれている。

エ フランス国王と教皇は和解し、フランス国王の教会領への課税権はその半分を教皇に配分する形で認められた。

## 世界史

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

383年、中国安徽省の北西部を流れる淝水(ひすい)のほとりで、長安に本拠をかまえる前秦と  に都をおく東晋との間に戦闘が行われた。淝水の戦いとよばれるものである。五胡の一つである  の族長苻健によって建国された前秦は、3代目の苻堅のときに華北を統一し、その勢いに乗じて一気に東晋を滅ぼそうとしたのである。東晋では名臣といわれた謝安が甥の謝玄<sup>(1)</sup>をつかわし、これを迎え撃った。謝玄率いる東晋軍8万に対し、苻堅自らが率いた大軍は総勢90万ともいわれたが、謝玄の攪乱戦法により、前秦軍は大敗を喫した。苻堅は命からがら長安に逃げ帰ったものの後秦<sup>(2)</sup>を建てた姚萇(ようちょう)に捕殺された。国運を左右するこの戦闘を無事に乗り切った東晋に対し、それまで統一を保っていた華北は、各民族が前秦の支配から離反し、それぞれが国を建てる大混乱の時代に入ったのである。

淝水は現在では東肥(淝)河または南肥(淝)河といい、安徽省の省都である合肥市の西側を北に向かって流れて淮河に注ぐ。北魏の酈道元が著した地理書である『』ではこの河を肥水と記している。後漢末の群雄の一人で華北の実権をにぎり魏王となった  は、拠点とした許、鄴、洛陽の近郊のほか、淮河に合流する手前の淝水の低平地にも屯田を開いている。

淝水の戦いに勝利した東晋は、永嘉の乱(311～316)により滅亡にいたった晋(西晋)の宗室である  が、中国北部から移住した貴族と土着の豪族の支持で建国したものである。永嘉の乱の前におこった晋の宗室諸王による内乱である  では、諸王が次々に挙兵し権力争いを繰り広げ、周辺民族の兵力を利用したため、五胡の侵入をまねいた。その混乱に乗じて漢を建てた  の劉淵の子劉聡によって洛陽が占領され、その後長安も陥り西晋は滅亡したのである。永嘉の乱の直前に西晋の都洛陽に入り、そののち後趙を建てた  の石氏に重用された  は、中国仏教発展の基礎を築いた道安をはじめ多くの門徒を育成し、戒律の整備と仏教の普及に努めた。一方、東晋時期の仏僧である法顕は、戒律の文献をそろえるために長安を出発し、陸路で西域を経てインドに至り、仏跡をめぐりながら各種の仏典を集めた。この頃、北インドを統治し



ていたのがグプタ朝である。法顕はその後セイロンを経由し海路で中国青州(山東省)に帰着した。西域・インド・南海30余国の事情を記した貴重な史料である『仏国記』(『高僧法顕伝』とも称される)は彼の旅行記である。

中国北部の兵乱が及ばなかった江南に建てられた東晋ではあったが、君主権が弱く政争が繰り返され、東晋の武将である  に禅譲し、代わって宋が建国されることになった。しかしながら、華北の動乱を避けるため、多くの住民が南に移住し、江南の開発が進み、  文化が形成されて書画や文学で卓越した人材が輩出された。人物画や神仙思想の山水画に秀で「女史箴図」(現存する大英博物館所蔵のものは唐初の模写と推定されている)を画いたとされる  は「画聖」と称される。「蘭亭序」(原本は残されていない)で有名な  は、行書・草書・  の3書体を芸術的に完成させ「書聖」と称され、「帰去来辞」でその名を知られる  は、田園生活から生まれる独特の平易さをもつ趣の深い詩を数多く残し、<sup>(5)</sup>六朝第一の「自然詩人」とされる。

問1 文中の空欄  ~  に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 1 紅巾の乱 | 2 黄巾の乱 | 3 八王の乱 | 4 黄巢の乱 |
| 5 楷書   | 6 隸書   | 7 篆書   | 8 四書   |
| 9 氐    | 10 羌   | 11 羯   | 12 鮮卑  |
| 13 突厥  | 14 匈奴  | 15 柔然  | 16 契丹  |
| 17 科挙  | 18 莊園  | 19 貴族  | 20 庶民  |

## 世界史

問2 文中の空欄  ～  に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- |       |       |        |        |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|
| 1 司馬遷 | 2 司馬睿 | 3 司馬炎  | 4 司馬光  | 5 劉裕  |
| 6 劉備  | 7 諸葛亮 | 8 曹操   | 9 孫権   | 10 蕭衍 |
| 11 陶潜 | 12 阮籍 | 13 柳宗元 | 14 閻立本 | 15 成都 |
| 16 建康 | 17 咸陽 | 18 武昌  |        |       |

問3 下線部(1)に関して、謝玄の孫で、宋で活躍した山水詩の第一人者は誰か。その人名を漢字で解答欄に記入せよ。

問4 下線部(2)に関して、亀茲王の妹を母にもち、大乘仏教を修めた後、後秦の長安に迎えられ、仏典の漢訳と講説につとめ、仏教教理の中国定着に大きな役割を果たした西域亀茲出身の仏僧は誰か。その人名を漢字で解答欄に記入せよ。

問5  には、北魏の酈道元が著した地理書が入る。その書籍の名称を漢字で解答欄に記入せよ。

問6  には、310年に西晋の都洛陽に入り、のち後趙で重用された西域亀茲出身の仏僧が入る。その人名を漢字で解答欄に記入せよ。

問7 下線部(3)に関して、戯曲『シャクンタラー』の作者でサンスクリット文学の最高峰とされるグプタ朝期の詩人・戯曲家は誰か。その人物名をカタカナで解答欄に記入せよ。

問8 下線部(4)に関して、この島から東南アジアの大陸部に広がったことから南伝仏教とも称され、また小乗仏教という蔑称もある、戒律の厳守を主張した仏教の部派の名称を漢字で解答欄に記入せよ。

問9  には、人物画や神仙思想の山水画に秀で「女史箴図」を画いたとされる人物が入る。その人名を漢字で解答欄に記入せよ。

問10  には、「蘭亭序」で有名な「書聖」と称される人物が入る。その人名を漢字で解答欄に記入せよ。

問11 下線部(5)に関して、江南地方に建国した6王朝を六朝と称するが、六朝に数えられる王朝を以下より3つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 楚 | 2 梁 | 3 越 | 4 呉 | 5 魯 |
| 6 燕 | 7 蜀 | 8 韓 | 9 陳 |     |

## 世界史

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ(語群A、語群Bは末尾にある)。

オスマン帝国は、13世紀末以来小アジア、バルカンで勢力を築いて、地中海東部、南部も支配した。しかし、17世紀に東欧進出に失敗し、その後もロシアと勢力争いを繰り返しながら19世紀には衰退傾向をはっきりさせた。それは、地中海南部でエジプトが自立を図り、またバルカン半島でギリシアの独立運動が起こった<sup>(1)</sup>ことに示される。これらの紛争にはヨーロッパ諸国が介入した。オスマン帝国は、19世紀半ばのクリミア戦争に勝利したが、これはヨーロッパ諸国の介入によるものだった。この後バルカン半島では諸民族の独立運動が勃興し、1875-76年にはボスニア・ヘルツェゴヴィナで対オスマン蜂起が、ブルガリアでも独立を求める蜂起が起こった。バルカンのこうした状況にヨーロッパ列強がそれぞれの利害から介入し、地域を一層不安定化させた。1877-78年のロシア=トルコ戦争を終結させたベルリン会議<sup>(2)</sup>には列強の思惑が表れていた。この後列強の関心は、ユーラシア大陸東端の極東に向けられたためバルカン半島は静穏化したようにみえた。しかし、日露戦争後には列強のブロック化が進む中でバルカン半島情勢は再び焦点となった。<sup>(3)</sup>ロシア、イタリア、オーストリア=ハンガリー、ドイツ、イギリスの利害<sup>(4)</sup>と思惑、オスマン領ヨーロッパ部の諸民族の動きが関連し合い、バルカン半島の紛争がヨーロッパ全体の戦争となる恐れからこの地は「ヨーロッパの火薬庫」と呼ばれた。実際相次いで起こったボスニア・ヘルツェゴヴィナ危機(1908年)、イタリア=トルコ戦争(1911-12年)、<sup>(5)</sup>2次にわたるバルカン戦争は、第一次世界大戦に至る道程だったのである。

問1 下線部(1)について、次の問いに答えよ。

- ① エジプト総督となりその近代化、自立化を進めた人物を語群Aから選び、その数字を解答欄にマークせよ。
- ② ①の人物の行った第1次、第2次エジプト＝トルコ戦争でいずれもエジプトを援助した国家を語群Bから一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。
- ③ ①の人物はギリシア独立戦争ではオスマン帝国を援助した。この時ギリシアを支援した諸国でイギリス、フランス以外の国家を語群Bから一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

問2 下線部(2)について、以下の文章の①から⑥にあてはまる国名、地域名を語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

会議で締結されたベルリン条約は、オスマン帝国の領土を縮小し、いくつかの独立国家が生まれた。一部がアドリア海に面する( ① ), 黒海に面しロシアと国境を接する( ② ), 内陸部の( ③ )である。このほかにロシアの保護下で自治国化することを( ④ )について承認した。また( ① ), ( ③ )と接する( ⑤ )については( ⑥ )による占領と行政権を承認した。トルコ領土にとどまったアルバニア、マケドニアは、この後諸国、諸民族のいさかきの焦点となった。

## 世界史

問3 下線部(3)について、以下の文章の a, b にあてはまる人名を語群Aから、①から⑥にあてはまる国名を語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

ロシアは、1873年に( ① )の政治家( a )の考えで皇帝( b )の下にある( ② )とともに三帝同盟に、さらに1881年には新三帝同盟に加わった。同盟が解消された後は( ③ )と同盟関係を結んだが、この二国間関係の維持はロシアにとり第一次世界大戦に至るまでもっとも基本的な同盟となった。( ③ )は、ロシアと同盟したが、安全保障上の問題になお直面していたため1904年に( ④ )と協商関係を結び、さらにアジアの勢力範囲に関して( ⑤ )と1907年に協定した。同年ロシアは、( ⑤ )と朝鮮半島、満州に関する協約、次いで( ④ )とアジアに広く関わる協商を締結した。

他方で( ① )、( ② )の同盟関係には( ⑥ )が加わっており、国際関係のブロック化が進展した。

問4 下線部(4)について、以下の文章の①から⑧にあてはまる国名、地名を語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

ロシアは、( ① )海峡、( ② )が面するマルマラ海、( ③ )海峡を経てエーゲ海、地中海へ出る航路の確保を目指していた。他方ドイツは、オーストリア＝ハンガリーを支援してバルカン半島で影響力を強めるとともに( ④ )鉄道の建設などでオスマン帝国に進出を図った。これは、( ⑤ )でロシアと影響圏を分割し、その東隣の( ⑥ )で勢力を確保して( ⑦ )の防衛を図ってきた( ⑧ )を大いに刺激するものだった。

問5 下線部(5)について、以下の文章の①から⑤にあてはまる国名を語群Bから選び、その数字を解答欄にマークせよ。

ボスニア・ヘルツェゴヴィナの( ① )による併合を余儀なく承認したロシアは、併合に強く反発した( ② )とベルリン条約で領土を狭められたことに不満を持ってきた( ③ )の二国間に同盟関係を成立させるべく画策した。この後( ② )、( ③ )とエーゲ海に面する( ④ )、また( ⑤ )が条約を締結し、四国のバルカン同盟が形成された。第1次バルカン戦争は、四国のオスマン帝国に対する戦争となった。この戦争はバルカン同盟の勝利に終わり、オスマン帝国の弱体をさらに明らかとした。しかし、領土配分に不満な( ③ )は、第2次バルカン戦争を起こした。

## 〔語群A〕

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 アブデュルハミト2世       | 2 アブデュルメジト1世 |
| 3 アレクサンドル1世        | 4 アレクサンドル2世  |
| 5 ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世 |              |
| 6 ヴィルヘルム1世         | 7 ヴィルヘルム2世   |
| 8 ウラービー            | 9 カブール       |
| 10 ナポレオン＝ボナパルト     | 11 ニコライ1世    |
| 12 ニコライ2世          | 13 ビスマルク     |
| 14 フランツ＝ヨーゼフ1世     | 15 マカートニー    |
| 16 マッツイーニ          | 17 ミドハト＝パシャ  |
| 18 ムスタファ＝レシト＝パシャ   | 19 ムハンマド＝アリー |
| 20 ルイ＝ナポレオン        |              |

## 世界史

〔語群B〕

(重複して使用してよい。)

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 アフガニスタン        | 2 アルメニア        |
| 3 イギリス           | 4 イスタンブル       |
| 5 イタリア           | 6 イラン          |
| 7 インド            | 8 オーストリア＝ハンガリー |
| 9 オランダ           | 10 ギリシア        |
| 11 セルビア          | 12 ダーダネルス      |
| 13 ドイツ           | 14 日本          |
| 15 パキスタン         | 16 バグダード       |
| 17 フランス          | 18 ブルガリア       |
| 19 ボスニア・ヘルツェゴヴィナ | 20 ボスフォラス      |
| 21 マケドニア         | 22 マラッカ        |
| 23 モンテネグロ        | 24 ルーマニア       |
| 25 ロシア           |                |



(白 紙)